

Kayak Escorts for Open Water Swims (要約)

カヤックによる水泳の付き添い

出展：Sea Kayaker February 2009 P15～P18

著者：Bart Selby (サンフランシスコ在住、シーカヤック暦 15 年)

シーカヤックでの海上水泳の付き添いを甘く見てはいけません。トライアスロン競技は全米で開催されていますが、死者の全てが水泳中に発生しています。特に心臓麻痺による死者は、2008年夏のトライアスロン競技中に少なくとも8名が命を落としています。

海上での水泳競技には、シーカヤックによる付き添いあるいは護衛としての役割が公式に必要とされています。競技主催者は、まず最初に地元のシーカヤッカーの協力を取り付けることから準備が始まります。

シーカヤックの役割とその意義を正しく理解する必要があります。シーカヤックは水泳競技者の異常を真っ先に発見してライフガードや、救護班を要請することが大きな仕事です。水泳競技者に接近するには、シーカヤッカー技術に長けた者でなければなりません。特にセルフレスキューができることは必須条件となります。

長年の経験がある主催者はシーカヤックの付き添いがライフガード役ではないことを知っています。シーカヤックの役割は第一に水泳競技者がコースから外れないように競技者へ知らせる役目です。第2に事故が発生する前に競技者の状況を監視することです。それができるのはプロペラ動力を使わないシーカヤックだからこそです。競技者の状況如何では、本格的な救助要請を行います。シーカヤックは第一発見者となります。一般的な競技会では泳者40名に対してシーカヤック1艇の配置が最低です。

競技者をサポートする体制は、救助の輪をつくることです。競技者を囲む第一の輪はシーカヤック、その外にトーイングボードを付けたジェットスキー、その外にモーターボートとなります。荒れた海況のときは指導艇がいて、各付き添い艇に支持を出すのがベストです。

水泳競技者は海上では直進することはできません。必ず、左右にそれます。競技者は陸上の目印を頼りに進路を確認しています。ところが、水中メガネは曇ってしまい、視認できません。波があった場合はより難しくなります。進路をそれた競技者のそばに寄って、シーカヤックをバリエードにして進路を塞いだり、大声を出して(耳栓、ネオプレーン帽子をしていると聞こえにくい)、正しい進路を伝えます。

競技者を牽引することは、よほど岩礁地帯で直ちに移動させないと危険な時だけです。通常はバウに競技者を掴ませます。バウは競技者の状況を把握でき、カヤックを安定させるに一番良い場所です。

競技者の状況として、先頭集団はあまり問題ありません。競技者が救助を求めて

いるのかの状況判断は迅速で、正確に行う必要があります。判断に迷う場合はライフガードを呼んで判断を仰ぎます。競技者が意識を失った状況でないかぎり、カヤックから降りることはしないようにしてください。

シーカヤックの付き添いの基本は、観察、発見、状況判断、励まし、進路補正、進路へ戻します。判断として海水温が 18 度以下であれば低体温症を念頭に入れる必要があります。

水泳競技者の状況判断の指針

問題ない競技者

1. 長く滑らからストロークで泳いでいる
2. 5あるいは8、または10回のストローク毎に頭を上げて周囲を見回す
3. 泳いでいる時の頭の位置は低い
4. 一定の速度で泳ぎ、止まらない
5. まっすぐに泳いでいる

がけっぶちの競技者

1. 短く飛沫をあげるストローク
2. 泳いでいる時の頭の位置が高い
3. 頻繁に休む
4. まっすぐに泳げない

以上

平成 21 年 7 月 21 日
大森青べかカヌークラブ
(長谷川)